



BABY COURSE

デフサポちゃん
2000年10月



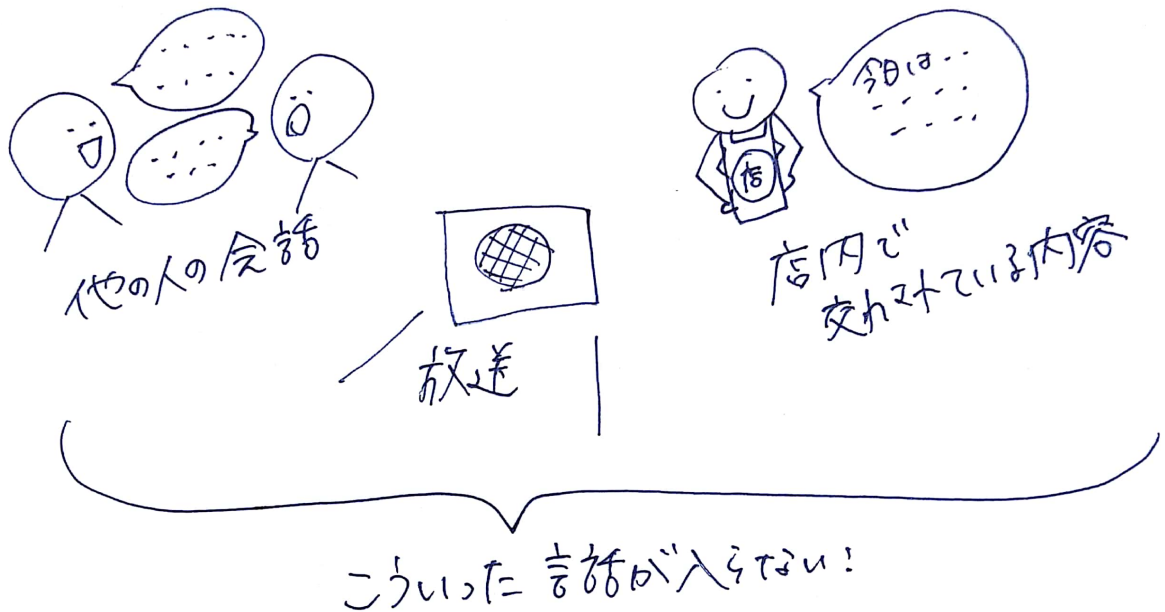
DEFSAPO SECRET METHOD



抜けやすいことばを中心に(1)

デフサポちゃんのように、聞こえない子供の場合、苦手なことばとインプットされやすいことばの差がかなりあります。聞こえる子と比べて本来自然とインプットされていることばが、聞こえる子に比べて少ないからなんです。

例えば、聞こえる人のように親同士の会話や、店員さんの会話などが聞こえていません。会話を「聞こう」と意識しないと耳に入らないことが多いんですね。そして、聞こえる人のように、聞きたい音や興味のある音を選ぶこともできません。



その結果、親→聞こえない子供へのインプットが殆どになってしまうので、教えていないと抜けてしまいます。なので幼児期のうちはかなり大変ですが、なるべく小学校入学前に聞こえる子と同等、もしくはそれ以上にことばを入れていくことを意識しましょう。

※大きくなってからは「本」や「ネット」からも色々と吸収することができますが、まずそのことばを読んで意味を理解して、自分のものにするところができるだけの思考力の土台を作る必要があります。

そして、インプットがないまま小学生に上がってしまうと、勉強の合間に「ええ！まだそんなことも知らないの?!」というような簡単な単語を知らないという事になってしまいます。（例：でも、～だから、運動靴、スニーカー、ロッカー…etc）

そうすると、小学校で他の勉強が始まるのに、その合間に知っていて当然の単語を教えていく必要性が生じます。これは本当に大変なので、なるべく生活言語に関わる基本的なことは、幼稚園の年長さんまでに入れきることを目標にしましょう。

(次ページに続く)



2項目の聴覚記憶を鍛えよう(1)

Why??

・ 2項目のことばに注意を向けよう

デフサポちゃんに関わっているときに、様々な形の2語文に注意を向けさせ聞いてもらうことで聴覚記憶を鍛えることができます。

※専門用語では、厳密には「文」と扱わず2語連鎖といいます

日常で使っている2語連鎖はたくさんあります。以下に、聴覚記憶を鍛えるための2語連鎖の形の例をあげます。

遊びの中で、聴覚記憶を鍛えるという目的であれば、新しい語彙を使ってもかまいません。ただし、2項目の聴覚記憶が育ったかどうかを確認するときは、すでに理解できている語彙を使います。(確認するのは、数か月以上たち2項目の聴覚記憶があると確信できる頃になってからでいいでしょう)

ではどんな言葉を実際に使えばいいのかというと、以下4つを意識するのが良いでしょう。

1「目的語+動作語」

例：「ワンワンを洗う」

2「動作主+動作語」

例：「ママが寝ている」

3「様子ことば+名詞」

例：「赤い+電車」

4「動作語+動作語」

例：「紙を 切って 貼る」

ワンワンを洗おうね。



※人形のワンワンです。

赤い電車だね。





2項目の聴覚記憶を鍛えよう(2)



日常での関わり方のポイント！

1 2項目の聴覚記憶を育てる

2 「キラキラ」「ぬれている」など
様子ことばを中心に、新しい語彙を増やす

3 起きている問題を言語化する。
「あ、こわれちゃった！」
「あ、ぬれちゃった！」
「あ、よごれちゃった！」



4 起こった問題に対して
「どうしたらいいかな？」と
解決方法を考える

5 「〇〇するには何がいる？」
と聞かれて考える



6 ④と⑤をすることで、
問題解決力を少しずつ鍛える

動作主と動作語を意識しよう！



遊びながら声かけしよう！



用意するもの

スプーン、タオル（布団）、歯ブラシ、帽子、2～3つのぬいぐるみ



お人形が寝ている



「きりんが食べるよ」
「くまさんが食べるよ」
「アンパンマンが食べるよ」

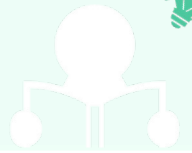
という形にすると、スプーンであげるそぶりをしながら、遊べます。ここでは、動作語を統一した状況で「**動作主＋動作語**」を聞きながら遊ぶことが目的です。

そのあと、「みんなねんねするよ～」と布団に見立てたタオルを引っ張り出し「きりんさん、ねんね、ねんね」といってとんとんと体をたたき寝かしつけます。

「くまさんもねんね、ねんね」と他のものも同じようにします。「しー！しずかに！」といったことばかけもしましょう。



た・だ の音を聞かせよう！ 1



Why??

今月は、両唇音に続き、たくさんのダ音、タ音を聞いてもらいましょう。初期に構音しやすい音として両唇音を紹介しましたが、他にもダ、タなど舌の先と歯茎を接触させてためた空気を出して音を出す音も両唇音の次ぐらいに構音しやすい音といわれています。

語頭がダ、タで始まる初期のことばや歌をたくさん聞きましょう。

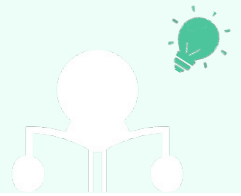
構音に先立ち、たくさん聞く必要がでてきます。また、この二つの音の違いは、喉を震わせているか否かの違いだけですが、これらの音も聞き分けられるようになってきます。

この二つを同じ遊びの中で同時に使って比較する機会をあげましょう。また、ことばは「だめ」など単独ではなく、短い文で提示するようにしましょう。例えば、しかるときは、何に関してしかっているのかを文章にするのが妥当でしょう。

このように、文章全体に対して、聴覚的注意を向けることを練習しはじめましょう。子どもは自分の力でどれが「単語」なのかを聞き分けることができるようになってきます。どんなタ・ダ音を出しながら子どもと遊べるかを考えてみましょう。



だ・た の音を聞かせよう！3



遊びながら声かけしよう！



用意するもの

なし



声かけ例

ダ・タで始めるリズム遊び

タ音は、リズムとあわせて体をゆらしたり、拍子をとったりして楽しむといいでしょう

「たん、たん、たぬき」♪

「たん、たん、たいこ」♪

「だん、だん、だんごむし」♪

*t, d音は、歯茎破裂音ともいいます。

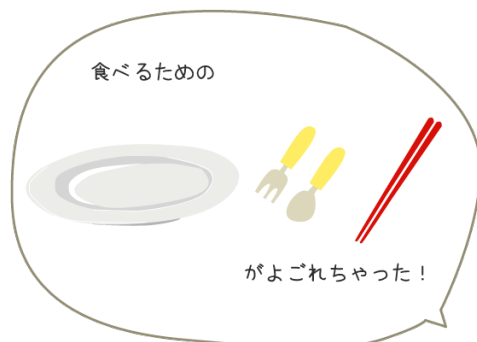
ことばの音遊びができる絵本『だっだぁー』もおすすすめです。様々な擬音語のような音をおもしろおかしく、イントネーションをつけたりして楽しみましょう。きっと興味をもってきいてくれるでしょう。



ここで大事なことは、音声模倣をさせようと試みないことです。絵本を読むこと自体も決して無理強いせず、興味をもってくれそうならば、音をたくさん楽しみながら聞かせるだけにしましょう。

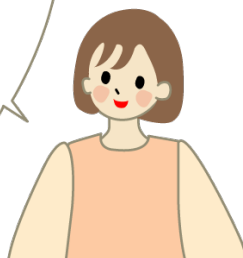


こういう言い方をしてみよう！



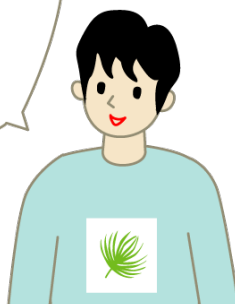
食べるときに使う物

「食べるための〇〇が汚れちゃった」
(お皿、スプーン、お箸など)



飲むときに使う物

「飲むための〇〇はどこ？」
(コップ、ストローなど)



歯を磨くときに使う物

「歯磨きのための〇〇があった」
(歯ブラシ、歯磨き粉など)

絵本を読むときのポイント



Why??

本が好きな子になってほしい、聞こえないからこそ絵本を楽しめるようになってほしい・・・！親御さんからそういったお話をよく聞きます。

0歳代～1歳代は特に、絵本に親しみをもたせることと、とにかく**嫌にならないように**したいところです。興味を持ったときには絵本を**プッシュ**するものの、**興味がないときは無理強いしないで**、さらっと置いておく、くらいがオススメです。



絵本をそのままのページで、そのまま素直に読む

わかりやすく定番でいえば、絵本をそのまま読むといった方法です。どうしても大人は最初から順番に見せたくなくなってしまいがちなのですが、子どもってぱっと開いたページから始めることも多くありませんか？そのときに、最初のページに誘導せずに、「デフサポちゃんが見ているページを読む」感じで、最初はとにかく絵本を見ているときにひと言ふた言声をかけることを意識してみましょう。



それ以外のことも話しかけよう！

デフサポちゃんはどうな読み方をしていますか？とにかくぱっと絵本をめくるのが楽しい！という感じなのか、カジカジ噛んだりするのか、まったく興味を示さないのか・・・。



デフサポをやっているお子さんも色々なパターンの子たちがいます。

で、ここで大事なのが**文字をちゃんと読みすぎないように**すること。赤ちゃんの頃はストーリーになっていないことも多く、**一声かけるだけでも充分**だったりするので、全然違う話をすることもあります。とにかく楽しく！

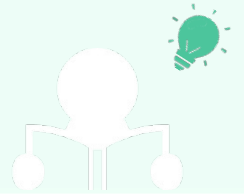
「きいろいびよちゃんだ～！」とか「くちばしでつんつんしてる！」という感じで。



ちょっとストーリーになってきたら…

少しストーリー性のあるものになったら、「読めた！」という達成感を優先します。なので話を端折ってでも、最後まで通して読めるようにします。その後、だんだん集中力がついてきたら、絵本のとおりに読んでいきます。

絵本を読んでみよう！



もいもい



科学的に赤ちゃんが好きな絵を研究して作られた絵本だそうです。

不思議な生物「もいもい」が形を変えながら冒険するお話です。赤ちゃんがくぎづけ、とか泣く子も黙るとか言われると、グズったときに読んでみたくなりますね。

大人には不思議な絵にしか見えませんが、もいもい、むいむい、ぽっ など、どういう感じで読めばいいのかと悩みますが、毎回イントネーションを変えてもいいですし、読み手によっても変わってくると思うので、自由に読んであげてみて下さい。

くだもの



ページをめくるとまずどどーんと丸ごとの緑のスイカ。さらにめくるとカットされた真っ赤なスイカが「さあどうぞ」と差し出されます。

続いて、もも、ぶどう、なし、りんごと写実的な絵はどれもみずみずしくて本当においしそうです。

果物は赤ちゃんの頃から身近な存在なのに、日常では皮をむいて小さく切って全然違う姿で目の前に出てくることが多いですね。食育が大切とはわかっていても、まるごとの姿は意識していないと、なかなか教えられるのかもしれない。

「あまいねー」「おいしい」「ごちそうさま」などたくさん声かけしながら読んでみてくださいね。